

対 カザフスタン共和国 事業展開計画

2022年4月1日 現在

基本方針 (大目標)	経済開発と社会開発のバランスの取れた国造り支援
-----------------------	-------------------------

重点分野1 (中目標)	経済・社会インフラの整備														
開発課題1-1 (小目標) 運営・管理体制も含めた経済インフラの整備	【現状と課題】 カザフスタンでは、旧ソ連時代に整備されたインフラ整備の老朽化が進んでおり、運輸、電力等の経済インフラや、医療、教育等の社会インフラの更新が追い付いていない。持続的な経済成長を支えるためには、これらインフラの更新が重要な課題となっている。					【開発課題への対応方針】 経済・社会インフラ整備のための協力を検討するとともに、その管理・運営面での技術協力を行っていく。									
	協力プログラム名	協力プログラム概要	案件名	スキーム	実施期間							支援額 (億円)	SDGs	備考	
					2021 年度以前	2022 年度	2023 年度	2024 年度	2025 年度	2026 年度	2027 年度以降				
	経済インフラ整備プログラム	過去に無償資金協力により整備したインフラの維持管理等の能力強化を支援する。また、我が国の民間企業への支援として、電力セクターなどにおける開発投融資案件の形成等を行う。	経済インフラ整備分野の課題別研修	課題別研修他		■							9		
	社会インフラ整備プログラム	中央アジアの地域的な課題に対し、広域協力により解決を目指す。ユニバーサルヘルスカバレッジの世界的な展開や中央アジアに特化した医療機材の維持管理の問題、非感染症疾患対策、社会福祉にもつながるリハビリテーション能力強化など、地域共通の課題で1カ国では対応が難しい問題に関して横のネットワークを構築し、地域全体で解決能力の強化を図っていく。カザフスタンには、そのリーダー役が期待されている。	ユニバーサル・ヘルス・カバレッジ (UHC) (2020年度)	長期研修	■							0.18	3		
			ユニバーサル・ヘルス・カバレッジ (UHC) (2021年度)	長期研修	■							0.18	3		
			早期胃癌の内視鏡診断と治療(広域)	国別研修	国別研修			■	■	■			0.06	3	
			脳卒中リハビリテーション(広域)	国別研修	国別研修		■	■	■				0.06	3	
			経済社会開発計画	無償	無償	■	■	■					4.00	3	医療機材供与
			医療・教育分野への草の根無償資金協力	草の根無償	草の根無償		■						0.25	3	
	医療機材管理・保守(広域)		国別研修	国別研修	■	■						0.04	3		

重点分野2 (中目標)	持続的経済成長のための人材育成														
開発課題2-1 (小目標) 持続的経済成長 のための人材育成	【現状と課題】 カザフスタンは、これまで石油など資源エネルギー価格の高騰を追い風に高度経済成長をなし得てきたが、持続的に安定した経済発展を実現するためには、産業の高度化や中小企業の振興を通じた製造業の育成、また近代技術を導入した農業の活性化などにより、産業構造の多角化を図る必要がある。このため、これらを担う人材を育成するとともに、ビジネス環境を向上させる政策策定や制度整備を行っていくことが必要である。					【開発課題への対応方針】 主として専門家の派遣や研修等の技術協力のスキームを活用した協力を実施していく。									
	協力プログラム名	協力プログラム概要	案件名	スキーム	実施期間							支援額 (億円)	SDGs	備考	
	人材育成プログラム		我が国の資源関連企業にも裨益する当国の資源行政の能力強化を図り、併せて産業振興を担う民間人材育成を行う。	資源国の行政・研究人材育成（2020年度）	長期研修	2021 年度以前	2022 年度	2023 年度	2024 年度	2025 年度	2026 年度	2027 年度以降	0.08	12	
			資源国の行政・研究人材育成（2021年度）	長期研修								0.08	7		
	産業振興政策支援プログラム		経済的にはODA卒業が間近である当国の経済全体の底上げを図りつつ、我が国との経済関係の強化を目指して、日本センターのプラットフォーム化や個別専門家の活動、国立商工会（アタメケン）との協力を通じた国別研修による両国の企業マッチング、女性起業支援などに取り組む。また、中央アジアにおける経済の中心として、国際金融センターの強化を図るとともに、これらのアセットを活用し、KazAIDと連携して中央アジアや近隣国へ支援を行う。	日本の経験を通じたビジネス振興	国別研修								0.24	8	
				ビジネス振興アドバイザー	個別専門家								0.39	8	
				一村一品研修	第三国専門家								0.15	8	
				一村一品運動を通じた中央アジアにおける地場産業活性化プロジェクト	技プロ									8	JICA内調整中
				アスタナ国際金融センターの能力強化	国別研修								0.04	8	
				アスタナ国際金融センターの能力強化	国別研修									8	JICA内調整中
女性の起業・中小企業支援（地域資源を活用した商品ブランディング・マーケティング（A）への上乗せ）	国別研修									8	JICA内調整中				

重点分野3 (中目標)	環境保全・気候変動対策													
開発課題3-1 (小目標) 先端技術を活かした環境保全対策及び気候変動対策	【現状と課題】 1. カザフスタンは大気・水質・土壌汚染、産業廃棄物など幾多の環境問題を抱えており、自然環境の保全その改善が大きな課題となっている。2. カザフスタンでは、ソ連時代の非効率な電力供給や熱供給システムにより温室効果ガスの排出量が世界的に見ても多く、気候変動対策上の課題を抱えている。施設の老朽化によりエネルギーの供給効率が著しく低い一方、省エネ技術や省エネ意識が普及していないことにより、効率の悪いエネルギー利用をしていることも課題であり、持続的な経済成長を確保するためには、エネルギー分野（発電所の近代化や省エネ機器の普及等）の再整備及び管理・運用面での能力構築支援が求められている。					【開発課題への対応方針】 省エネ施策の推進やエネルギー供給の効率化技術の移転によるエネルギー需要の抑制や低炭素化を図るため、主として、専門家の派遣や研修等の技術協力のスキームを活用した協力を実施していく、モデル的な事業を実施することにより、民間企業による投資を促していく。また、自然環境保全については、国別研修や草の根無償資金協力を通じて我が国の事例を紹介し、啓発や意識改革を図っていく。								
	協力プログラム名	協力プログラム概要	案件名	スキーム	実施期間							支援額 (億円)	SDGs	備考
	環境保全プログラム	国別研修や草の根無償資金協力を通じてカザフスタンの自然環境改善及び保全に資する協力を行う。また、省エネについては、これまでの国別研修を通じた監査能力の強化から、省エネ技術の導入を図るためのパイロットプロジェクトの実施に舵を切り、技プロを通じて効果の実証及びデモンストレーションを行い、民間投資へつなげていく。	産業部門の省エネルギー推進-エネルギー監査と省エネ活動	国別研修	2021 年度以前	2022 年度	2023 年度	2024 年度	2025 年度	2026 年度	2027 年度以降	0.18	7,13	
			省エネ技術促進・代替エネルギー計画策定プロジェクト	技プロ									7,13	アイデア審査中
		地域振興に寄与するエコツーリズム等の湿地資源の持続可能な利用	国別研修								0.15	15		
環境分野への草の根無償資金協力		草の根無償								0.02	15			

重点分野4 (中目標)	その他													
開発課題4-1 (小目標) その他	【現状と課題】 1. 中央アジアは、貧困、環境、防災、麻薬、国境管理、国際テロリズムなど一国のみでは容易に対処できない地域的協力を必要とする課題を抱えており、これらに対処するための地域横断的な支援が必要である。 2. カザフスタンは2020年に開発援助機関として国際開発庁（KazAID）を立ち上げ、ドナー国としてアフガニスタンや中央アジアの諸国に対する援助・支援を行う予定であることから、開発協力に関する知見の共有や人材の育成等が必要である。					【開発課題への対応方針】 主として、専門家派遣や研修等の技術協力や国際機関と連携した協力を進めていく。								
	協力プログラム名	協力プログラム概要	案件名	スキーム	実施期間							支援額 (億円)	SDGs	備考
	開発援助機関協力プログラム	カザフスタンの開発援助に携わる人材育成等の協力を行う。	ODA能力強化アドバイザー 中央アジアにおける国境連絡事務所能力強化による域内越境協力強化計画（UN連携/UNODC実施）	個別専門家 無償	2021 年度以前	2022 年度	2023 年度	2024 年度	2025 年度	2026 年度	2027 年度以降	0.50 4.71	16 16	 中央アジア5か国で実施

凡例】「協定」（＝全ての協力準備調査）、「詳細設計」（＝詳細設計）、「基礎情報調査」（＝基礎情報収集・確認調査）、「技プロ」（＝技術協力プロジェクト）、「開発計画」（＝開発計画調査型技術協力）、「個別専門家」、「個別機材」、「国別研修」、「課題別研修他」（＝課題別研修及び青年研修）、「JOCV」（＝JICA海外協力隊）、「第三国専門家」、「第三国研修」、「現地国内研修」、「科学技術」（＝科学技術協力（技プロ型及び個別専門家型））、「草の根技協」（＝草の根技術協力）、「〇〇省技協」（＝外務省・JICA以外の省庁及び独立行政法人等が実施している技術協力）、「民間提案型技協」（＝開発途上国の社会・経済開発のための民間技術普及促進事業）、「SDGs調査」（＝途上国の課題解決型ビジネス（SDGsビジネス）調査）、「無償」（＝以下に特記するサブ・スキームを除く全ての無償資金協力）、「水産無償」（＝水産無償資金協力）、「食糧援助」（＝食糧援助）、「一般文化」（＝一般文化無償資金協力）、「草の根文化」（＝草の根文化無償資金協力）、「緊急無償」（＝緊急無償資金協力）、「日本NGO」（＝日本NGO連携無償資金協力）、「草の根無償」（＝草の根・人間の安全保障無償資金協力）、「有償」（＝円借款、海外投融資）、「情報収集調査」（＝基礎情報収集・確認調査）、「マルチ」（＝国際機関等を通じた多国間協力のスキーム）、「基礎調査」（＝中小企業・SDGsビジネス支援事業「基礎調査」）、「案件化調査」（＝中小企業・SDGsビジネス支援事業「案件化調査」）、「普及・実証・ビジネス化事業」（＝中小企業・SDGsビジネス支援事業「普及・実証・ビジネス化事業」）、「実線」（＝実施期間）、「破線」（＝実施予定期間） ※この凡例にない略語を使用する場合は凡例に当概略語を記載したうえで使用する。
【SDGsゴールの説明】1「貧困」、2「飢餓」、3「保健」、4「教育」、5「ジェンダー」、6「水・衛生」、7「エネルギー」、8「経済成長と雇用」、9「インフラ、産業化、イノベーション」、10「不平等」、11「持続可能な都市」、12「持続可能な消費と生産」、13「気候変動」14「海洋資源」、15「陸上資源」、16「平和」、17「実施手段」
【SDGsの詳細】https://www.mofa.go.jp/mofaj/gaiko/oda/sdgs/pdf/SDGs_pamphlet.pdf

※上記の凡例にない略語を使用する場合は凡例に当概略語を記載したうえで使用する。